

令和5年度（第52回）川崎市文化賞等の受賞者が決定しました

川崎市は、市の文化、芸術、地域社会、市民福祉、スポーツ等の各分野において、功績のあった方に川崎市文化賞・川崎市社会功労賞・川崎市スポーツ賞を贈呈し、その榮譽を讃えています。また、文化、芸術等において活躍し、将来更なる活躍が期待される若い世代の方に川崎市アゼリア輝賞を贈呈しています。

令和5年度（第52回）の受賞者を、次のとおりを決定しましたのでお知らせします。

川崎市文化賞等受賞者（敬称略 プロフィールは次面を参照してください。）



〔川崎市文化賞〕

かたやま せきお
片山 世紀雄（教育）



〔川崎市文化賞〕

はつねや さきょう
初音家 左橋（芸術）



〔川崎市社会功労賞〕

おかの としあき
岡野 敏明（保健衛生）



〔川崎市社会功労賞〕

あかし ようこ
明石 洋子（社会福祉）



かがやき
〔川崎市アゼリア 輝賞〕

くろき ゆきね
黒木 雪音（芸術）



かがやき
〔川崎市アゼリア 輝賞〕

けいた たなか
KEITA TANAKA（ダンス）



かがやき
〔川崎市アゼリア 輝賞〕

こが ゆうな
古賀 結那（スポーツ）

<問合せ先>

川崎市市民文化局市民文化振興室 土屋
電話：044-200-2122

受賞者プロフィール（敬称略）

年齢／活動年数は令和5年11月8日現在

対象	分野	受賞者名・肩書・年齢（活動年数）	プロフィール
文化賞	教育	<p>かたやま せいきお 片山 世紀雄</p> <p>元神奈川県特別支援学校 校長会長 元川崎市退職校長会長 82歳</p>	 <p>昭和43年に川崎市立養護学校に配属され、「川崎の子どもの幸せのために」を座右の銘に児童に温かく接する一方で、当時の小学校にはなかった「特別支援学級」の設置に尽力され、担当教員への指導や助言活動などに精力的に取り組み、全国に先駆け市内全ての学校への特別支援学級の設置に多大な貢献をされました。</p> <p>退職後には NPO 法人教育活動総合サポートセンターの理事として不登校状態にある生徒の社会復帰を目指す活動等をされています。</p> <p>また、昭和60年には川崎いのちの電話の設立発起人として尽力し、現在も電話相談員の養成を続けられるなど、教育分野で多大な貢献をされています。</p>
	芸術	<p>はつねや さきさき 初音家 左橋</p> <p>落語家 67歳</p>	 <p>落語家として芸歴は44年、真打に昇進して28年の実力派で、卓越した話芸と、南京玉すだれや日本舞踊などの特技を持ち、誠実な人柄で、多くのファンを魅了しています。地元川崎はもとより、年間を通して全国各地の公演に出演し、国立演芸場花形演芸会金賞や文化庁芸術祭優秀賞を受賞するなど高い評価を受けています。</p> <p>また、ラゾーナ川崎プラザソルで毎月開催される「ラゾーナ寄席」に、第1回から現在まで11年間にわたり出演者の調整を行う世話人も務めながら自らも出演されているほか、新百合ヶ丘で行われる「しんゆり寄席」や「アルテリカ演芸座」に開始当初から出演するなど、人々に笑いと潤いの場を与え、落語による川崎市の文化芸術の普及と発展に貢献されています。</p>
社会功労賞	保健衛生	<p>おかの としあき 岡野 敏明</p> <p>医師 川崎市医師会長 64歳</p>	 <p>長年に渡り内科・小児科医として地域医療に貢献され、平成17年に川崎市医師会役員に就任してからは、災害・救急医療体制の整備に尽力され、東日本大震災などの災害発生時には、現地に赴き救護活動にあたり、その経験を活かし、本市の災害医療体制への助言を行っています。</p> <p>また、令和元年に登戸で起きた事件では児童の心のケアに取り組まれたほか、新型コロナウイルスの流行当初のダイヤモンド・プリンセス号には、いち早く船内診療を決断して出動したことに始まり、コロナ禍における医療機関での検査や発熱診療を早くから呼びかけるなど、感染症の終息に向けた取組に尽力されました。</p> <p>本市の災害・救急医療の分野において多大な貢献をされるとともに、市民の安全安心な医療体制の構築に大きく寄与されています。</p>
	社会福祉	<p>あかし ようこ 明石 洋子</p> <p>社会福祉法人あおぞら共生会理事長 薬剤師 社会福祉士 77歳</p>	 <p>自らが自閉症児を持つ親として、障害児の療育や教育環境の整備、余暇活動の企画運営など、親の会を立ち上げ様々な活動を展開してきました。</p> <p>また、障害者の自立を目指し、「働く場・暮らしの場・24時間365日のサポート体制」を行う、社会福祉法人を設立する一方で、川崎市障害者施策審議会委員や川崎市特別支援教育推進検討委員会委員をはじめとした各種委員を歴任されるほか、障害者の自立を軸にした著書を多数出版するなど、地域福祉、障害者福祉の向上に多大な貢献をされています。</p> <p>現在も第一線の現場に立ちながら、障害者の権利擁護活動を行うなど、障害者福祉のリーダーとして先導する役割を担っています。</p>
アゼリア輝賞	芸術（ピアノ）	<p>くろき ゆきお 黒木 雪音</p> <p>ピアニスト 24歳</p>	 <p>昭和音楽大学音楽学部を卒業し、同大学大学院修士課程を令和5年3月に修了されたピアニストで、在学中にショパン国際ピアノコンクールinASIAプロフェッショナル部門金賞受賞、リスト ユトレヒト2022優勝など数々の賞を受賞され、とりわけ、令和4年5月にはダブリン国際ピアノコンクールで日本人として初めて優勝を飾る快挙を達成しております。</p> <p>また、カルッツかわさき開館記念式典や、フェスタ サマーミュージックKAWASAKI、アルテリカしんゆりなど、市内でのコンサートにも数多く出演され活躍されています。</p> <p>ヨーロッパ等の国際音楽祭に招かれるなど、着実に実績を積み重ねており、今後、世界的なピアニストとなることが期待されています。</p>
	芸術（ダンス）	<p>けいた たなか KEITA TANAKA</p> <p>ダンサー ディレクター 洗足大学准教授 45歳</p>	 <p>川崎市を本拠地としているプロダンスリーグ「カドカワドリームズ」の総監督としてチームを率い、国内プロダンスリーグ「D. リーグ」2022-23 シーズン チャンピオンシップで優勝、世界大会の「UNITED DANCE ORGANISATION」で3位を獲得するなど、輝かしい成績を収めており、今後も活躍が期待されています。</p> <p>ご自身は、川崎市出身・在住で、プレイキンの聖地として知られるJR武蔵溝ノ口駅改札前でダンスの練習に明け暮れていた第一人者で、現在もプロダンスチームを率いる傍ら、ヒップホップのインストラクターや、洗足学園音楽大学准教授として学生の指導にあたるなど、次世代の育成にも尽力されており、川崎から多くの世界的ダンサーの輩出が期待されています。</p>
	スポーツ実践	<p>こが ゆうな 古賀 結那</p> <p>スキー選手 21歳</p>	 <p>川崎市出身・在住で、幼少期より市内の施設を拠点にスキーの練習を重ね、中学2年時から計3回、膝前十字靭帯の断裂などの大怪我を乗り越え、国内外の大会で上位入賞するほか、令和5年1月に開催された国際総合競技大会「FISU・冬季ワールドユニバーシティゲームズ 2023」ではフリースタイル2種目で金メダルを獲得する快挙を成し遂げました。</p> <p>公益財団法人全日本スキー連盟の「Snow Award 2023」において、優秀選手賞を受賞しており、2026年のミラノ&コッティナ・ダンパッツォ冬季オリンピックでのメダル獲得が期待されています。</p>